

まだまだコロナ感染の終わりは見えませんが、子供たちの学びをとめることはできません。二学期の始まりです。

オンラインで始業式

8月27日

夏休み後半に再び、緊急事態宣言が出されました。宗像市内の各小学校でも、感染予防の観点から様々な工夫を取り入れた始業式を行いました。

地島小学校は密になりにくい学校ではありますが、今後の様々なリスクを考え、タブレットを使ったオンライン始業式を行いました。それはコロナウイルスに感染するというリスクだけではなく、コロナ感染症など、学校が臨時休校となり、学習を進めることができないというリスクです。

まず、自分のタブレットを起動させ、Googlemeetに参加しました。すると、友達の顔や先生の顔が画面に表示されました。画面に写る友達の顔を見て、子供たちは、つい笑顔になっていました。校長先生の話も保健室の森田先生の話も、タブレットを通して聴きました。途中、一人ひとりの考えをマイクを通して話すこともしました。

GIGAスクールNews

このようにタブレットを使うと、万が一の休校時に、自宅で授業を受けたり、学習したものを提出したり、友達と画面を通して話したりすることができます。もちろん、顔と顔を突き合わせて、かかわりあうことも重要です。コロナ後の教育活動では、その両方を組み合わせ、バランスよく配置していくことが求められています。

また、どんなに便利な道具でも、その道具を使うのは人間です。道具を使いこなすためにも道具ができることとできないことを、知り、判断する力が必要です。

そのためにも、今、タブレットを使用し、何ができるかを探っています。



わたしたち教職員よりも、子供たちの方が、タブレット見ながら、話を聞いたり、発言したりすることに、抵抗がないことに驚きました。

生活科の畑～夏野菜編～

1年生の吏玖さんの生活科の畑には、キュウリとゴーヤとトマトを植えていたのですが、7月に入るとたくさんの夏野菜がとれはじめました。

夏休み期間中を含め、キュウリは150本以上、ゴーヤも70個以上収穫することができました。

気を抜いて、収穫時期を逃すと、キュウリは巨大化し、ゴーヤは破裂してしまいます。収穫の喜びを感じるとともに、夏休みに入るまでの期間ではありましたが、吏玖さんも世話を続けることの大切さを学ぶことができました。これから冬野菜を植えます。何を植えるか、吏玖さんと相談しながらすすめていきます。

心をこめて自分の仕事をする



1学期の生活アンケートで課題であった、「心をこめて自分の仕事をする」の向上をめざし、2学期は、「掃除」に焦点をあて、取り組んでいます。

自分の仕事、だれかのためになっていることを意識しながら、その人に、どんな心を届けるのか、自分に問いながら仕事をする子供の姿をめざします。

二学期も毎週、金曜日に「地島っ子通信」を発行します。お時間がありましたらお読みください。